

[た よ り]

## 常任理事会だより

山崎親雄

1. 「天災は忘れないように追い打ちをかける」といわんばかりに、愛知県の集中豪雨で透析施設の被害が出ました。愛知県支部の情報提供（インターネットの日本透析医会ホームページ参照）によれば、9月11日午後からの集中豪雨で、12日の透析ができなかった施設は3施設、このうち1施設は、翌週の18日に施設が再開されました。

この間、当該施設の患者は、近隣の医療機関で無事に透析を受けることができました。これ以外の施設でも、多数の患者さんや職員が被害に遭い、透析こそできましたが、通院・通勤には大変な困難を伴いました。

近隣の先生方を始め遠くの先生方からも、お見舞いや支援のご連絡を、愛知県透析医会および会員施設に頂きました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

ところで、こうした状況下では、診療ができなかった施設に対しての保険請求が問題となります。今回の場合についても、診療録等が流失したりした施設については、9月11日分までは概算（数カ月前の請求の平均値などから金額を割り出す）で請求するという、いわゆる「伊勢湾台風方式」の請求となるようですが、その後休業した分についての保障はありません。そこで、愛知県透析医会では、被害のなかった県内施設に呼び掛けて、義援金を募集することになりました。

今回の災害に関する詳細な報告は、愛知県透析医会災害対策委員会から提出される予定です。

2. 空気誤入による事故については、千葉県の調査委員会から詳細な報告書が提出されました（日透医誌 Vol.15 No.2参照）。事故後、直ちに事故をシミュレーションした実験が実施され、同様の条件では短時間に

回路内圧は2.1 kg/cm<sup>2</sup>に達し、回路を開放したときには最大約400 mlの空気が注入される可能性があるとしています。400 mlという量は、個人的には想像を遥かに超えるものでしたが、いかがでしょうか？

危機管理委員会の医療事故対策部会（秋澤忠男部会長）では、日本臨床工学技士会の協力を得て、事故防止のための透析手技に関するマニュアルを策定中です。間もなく上梓されますが、要点は、①回収時に空気は使用しないこと、②回路の接続部をルアーロックとすること、です。後者については、現在、工臓協を含めて検討中です。

3. 毎年、タイムリーなテーマで「コンセンサス・カンファレンス」と「カレント・トピックス」を計画していただく研修委員会では、各支部で開催される講演会と、支部単位で計画する研究に対して助成を行っています。

各支部主催の講演会や研修会の中の特別講演などに対しては10万円×10支部、研究に対しては申し込みに応じて全体で200万円/年の助成です。もちろんこの両者については、透析医会雑誌への報告が義務づけられています。

本年度は、前者については宮城・青森・岡山・大阪・愛知・鹿児島6府県に対し、後者については、5府県より応募があり、大阪・香川・愛知の各支部に対し助成が決定しました。今回は、上記の通り決定しましたが、この助成についてご存じない支部もあるかと思われる、紹介させていただきました。

4. 毎年6月分のレセプトを提出していただき、外来

透析分の診療行為別医療費定点分析を実施していますが、本年も4,000通以上のコピーを頂き、現在集計中です。結果は雑誌に報告されますが、今年度の改定での切り下げ分が明確にされることでしょう。

5. 原稿締切後の10月6日、鳥取県西部地震が発生しました。

阪神・淡路大地震なみの強度でしたが、被害が少なかったことは不幸中の幸いでした。震度5以上の地域は瀬戸内地方にまで及んでおり、当会でも直ちに情報収集活動を開始しました。

具体的には、該当する地域の透析施設へ、事務局から電話またはFAXでお尋ねする形でした。まだ検証されていませんが、当会のインターネット上の災害対策システムへの情報提供も、数件ありました。

結果的には、まだまだこのシステムが認知不足であると考えられ、支部を通じて一層の普及・活用が望まれます。

「災害発生時には、自主的に、(社)日本透析医会へご連絡下さい」

(社)日本透析医会

ホームページアドレス

<http://www.touseki-ikai.or.jp/>

Eメールアドレス

[info@touseki-ikai.or.jp](mailto:info@touseki-ikai.or.jp)

同 災害ネットワーク

ホームページアドレス

<http://www.hf.rim.or.jp/~to-ikai/>

Eメールアドレス

[to-ikai@hf.rim.or.jp](mailto:to-ikai@hf.rim.or.jp)

(文責：山崎親雄常務理事)